

# 医療・環境保全・農村開発

## 医療支援

一人でも多くの命を救うために

### パササンバオ医療チームの医療支援と健康増進活動

5月半ば、顔に火傷を負った幼児が助産所に運ばれ、応急処置の後病院に搬送しました。助産所の24時間対応は住民に頼りにされています。また、コミュニティーでの広報・啓発も重要な活動の一つで、6月にはイスラム教徒の多いマーシムで青少年対象の結婚・妊娠セミナーを実施しました。



の広報・啓発も重要な活動の一つで、6月にはイスラム教徒の多いマーシムで青少年対象の結婚・妊娠セミナーを実施しました。

### 助産所を担う次世代2人の近況

コロナで延期の助産師国家試験、11月実施が決まりました。難関突破のためコロナダルの市の予備校5か月コースに参加を決めたモナリサ。助産所からはバスで1時間半かかるため学生アパートに滞在の予定です。



臨床検査技師コース専攻のザイラは2年の成績も優秀で学部長リスト(左写真)に名前が掲載されました。今年助産所に支援した顕微鏡はザイラの技術実習にも役立ちそうです。

## 環境保全・農村開発の活動

新たな小規模アグロフォレストリープロジェクトが始まります

### ボルールのヤギ繁殖・菜園・養魚池プロジェクト

TBA/Tud Bolul Associationの事業責任者ボニファシオから「ヤギ牧場に隣接して野菜苗育成中」の連絡が入りました。



苗床

糞尿を活用した野菜の有機栽培は、妊娠や子ヤギ誕生などの報告が続くヤギ繁殖事業とともに、自主財源によるTBA活動発展の明るい材料です。

セブ湖で有名な淡水魚ティラピア。その養殖にも挑戦するため、ボルールでも池を作るための掘削を始めました。しかし、工具不足で時間がかかっているようです。6月末と聞いていた完成の報告はまだです。



掘削途上の養殖池

### ILSではゾウタケの栽培がスタート



東南アジア原産の世界最大竹種のゾウタケ。苗の栽培がILSで始まり写真が届きました。新学期には父母に栽培方法を教え、各10本ずつ配布の予定です。一方、労務提供で授業料が免除される学校農園での作業。ゾウタケ定植にも多くの父母が参加の予定です。「ゾウタケは地域を緑化し、その強い根張りで土壌侵食の防止に役立ちます。食品生産(若竹のピクルス)、家具の生産や建築にも使われ、何より竹の産業は雇用を産みます」と、このプロジェクトに期待するアニータ先生。私たちもこのゾウタケ・プロジェクトが地域住民の生活の支えになるよう見守りたいと思います。

### ボニファシオのコロナダ市農業専門職への挑戦

7月初め「専門職資格試験準備中」のメールがボニファシオから届きました。既に市の契約職員として、ビラーン人の組織化や農業指導で活躍中のボニファシオですが、正規職員として自身の生活基盤を固め、引き続きビラーン民族の地位や生活向上のために働く上で資格取得は重要です。8月5日実施という試験準備を優先するよう返信しました。

## 2つの女性組合の多角的収入向上プログラム・ハンディクラフトセンターが完成

ティヌオス及びトゥコブロール女性組合の活動の場が拡大します

竹細工販売が好調なティヌオス女性組合。1年前には幹線道路沿いに小さな展示即売店舗建設を支援しましたが、隣接するトゥコブロール地区でも女性組合が発足し、両組合それぞれの活動スペース建設の支援要請を受けました。

山腹斜面に完成したティヌオス女性組合の家の半地下構造の床下スペースは、地元の葉草やバナナ・たけのこ・サツマイモなどを煎じたり、酢漬けにしたり、揚げたりする炊事場となる予定です。



急斜面の半地下を葉草や食品加工スペースとしたティヌオス女性組合の家



セブ湖を臨むトゥコブロール女性組合の家

悪天候でセメントが乾かない、資材を運べない等々のトラブル報告に加えて届いたコンクリートブロック代の追加支援要請。子どもたちのため、母親たちのために東奔西走するアニータさんの奮闘ぶりは日々の報告でわかっていました。もう一押しと追加資金を送ったところ6月5日付で完成写真が届きました。私たちの支援はここまでです。これからは組合員の頑張りに期待したいと思います。